

年報

— 平成 10 年度 —

1999

大磯町郷土資料館

— 目 次 —

〔事業報告〕

庶務 …………… 4

- ・ 組織および職員
- ・ 運営委員会
- ・ 予算
- ・ 維持管理
- ・ 入館者

学芸 …………… 6

- ・ 企画展
- ・ 学級・講座
- ・ 刊行物
- ・ 調査・研究・普及
- ・ 博物館実習
- ・ 博物館資料の収集と利用

〔研究報告〕

国府祭について …………… 18

摘み草の会 ……

後藤ひろ子 中村 ふじ 熊沢 聖子
滝沢すみ子 渡辺 信子 滝口美代子
北村 和江 鵜飼レイ子 望月 定子

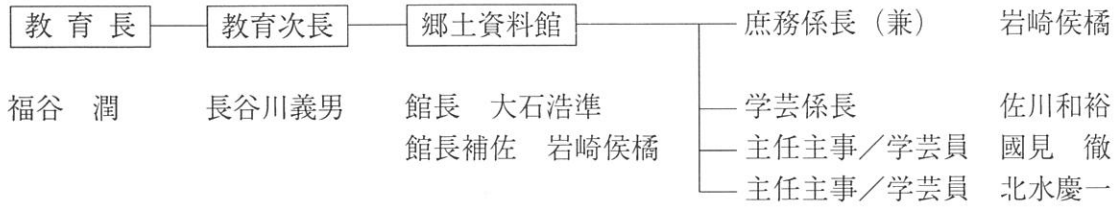
二宮町山西の民俗 (2)

佐川和裕 …… 27

事業報告

庶 務

■組織および職員



■運営委員会

<委員の構成>

- ・石井四郎 区長会連絡協議会
- ・稲葉和也 文化財専門委員
- ・福井靖史 学校長
- ・廣瀬利郎 社会教育委員
- ・石田和夫 学識経験者

<委員会の開催>

- ・平成10年9月4日 平成9年度事業報告、平成10年度事業について
- ・平成11年2月26日 平成10年度事業の進捗状況、平成11年度事業計画について

■予算

<当初予算の推移>

単位：円

年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
金額	76,955,000	77,930,000	63,697,000	62,526,000	57,439,000

<平成10年度決算>

単位：円

事業	運営事務	維持管理	学芸活動	特別展	企画展	教育普及	計
金額	5,611,771	15,460,485	2,260,633	—	662,211	86,987	24,082,147

□職員給与 (33,762,196) □委員等報酬 (51,100) □歳出合計 (57,895,443)

■維持管理

<委託業務>

- ・総合清掃委託／(株)フジワールド
- ・敷地管理委託／(財)神奈川県公園協会
- ・警備委託／(株)全日警横浜支社
- ・自家用電気工作物保守点検委託／小島電気管理事務所

- ・消防用設備保守点検委託／(有)湘南消防器具商会
- ・自動ドア保守点検委託／(株)ナブコ
- ・昇降機保守点検委託／ダイコー(株)横浜営業所
- ・空調設備保守点検委託／高砂熱学工業(株)横浜支店
- ・浄化槽保守点検委託／湘南興業(有)
- ・燻蒸業務委託／関東港業(株)横浜営業所
- ・動物剥製作成委託／(有)尼ヶ崎科学標本社
- ・祭船解体組立（展示）委託／大磯御船祭保存会
- ・絵画パネル貼り委託／藤和額装(株)

<施設の修繕>

- ・モニターテレビ、レーザーディスク修理／湘南家電
- ・展示室防護板取付け／杉山アート
- ・電話障害修理／東陽工業(株)神奈川支店
- ・浄化槽ブローアー整備他／高砂熱学工業(株)横浜支店

■入館者

<入館者の推移>

単位：人、日

	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	累計(昭和63年～)
入館者数	37,565	35,014	31,218	28,857	28,415	385,103
1日平均／開館日数	130／289	121／290	111／281	103／278	100／282	128／2,989

<月別入館者数>

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	2,533	2,678	1,779	1,164	1,649	1,863	4,098	4,273	1,176	1,539	2,676	2,537	28,415
1日平均	105	107	77	67	65	81	163	185	53	69	121	105	100

<見学・視察>

館対応のみ、単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	1	2	0	1	2	4	1	2	0	1	1	16

<研修室の利用>

単位：団体

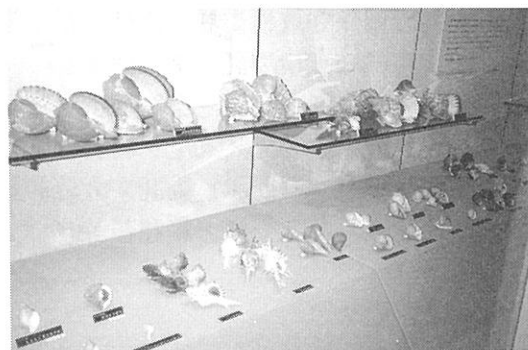
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	16	16	15	19	5	17	22	13	8	9	13	17	170

学 芸

■企画展

「相模湾の貝類Ⅰ—大磯海域にすむマキガイ—」

期 間 平成10年7月12日（日）～9月6日（日）
開場日数 46日間
会 場 企画展示室
出品点数 約1,000点
料 金 無料
入場者数 3,102人



（趣 旨） 大磯町では、現在町史編さん事業が進められている。大磯の歴史、民俗、自然について調査が展開されているが、自然については平成8年3月まで調査、執筆が行われ、その集大成として「大磯町史9別編 自然」が発行された。調査の際、集められた実物資料、写真資料の一部は当館に移管された。貝類については海産、淡水産、陸産のものが一通り移管され、全体の種類数は、520種を越えるものであった。これらの資料は、町内での貝類相を紹介するのに適した資料で、企画展で取り上げることは、日ごろあまり気にかけない海産生物に目を向けてもらうことにつながると考え企画を進めることにした。

（内 容） 展示資料の量的な問題から海産のマキガイにしぼり展示を行った。メインとなる展示は町史編さん事業で収集された資料を活用し「大磯海域にすむマキガイ」を構成。「近海のマキガイ」、「磯、浜のマキガイ」に分けて展示を行った。寄贈資料を活用しての国内外の珍しいマキガイ、当館資料や町史編さん事業での収集資料を活用しての大磯産マキガイの化石（大磯層、二宮層）も合わせて展示した。

当館の企画展示室は主だった部分がガラスケースとなっており、側面から資料を見るようになっている。見学者の位置から資料までの距離が一番短いところでも30cmと離れており、マキガイの5mm～10mm程度のもものでは資料が小さすぎて見づらい。このことを考慮して貝の全体像を捉えづらいものについては拡大写真を合わせて展示した。また、キャプションも他の展示より小さいものを活用し、キャプションが目立ち過ぎず、実際の資料が引き立つように工夫をした。資料点数は1,000点以上ありながら、個々が小さいものであるため、展示全体としてはあまり見栄えがしないように感じたが、1点1点資料の配置に気を遣い、先の述べたような工夫をしたこともあって、種の特徴を捉えやすい展示ができたのではないかと考えている。

（担 当） 北水慶一

「日本列島エハガキ紀行」

期 間 平成10年10月18日（日）～12月6日（日）
開場日数 40日間
会 場 企画展示室
出品点数 約2,500点
料 金 無料
入場者数 6,160人



（趣 旨） 当館では、かねてから絵はがきの収集に力を入れてきた。多くの方々から寄贈を受け、あるいは購入した絵はがきは多種多様で、その数は5,000点余りに及んでいる。明治後期から盛んに刊行されはじめた絵はがきは、当時の景観だけでなく、人々の生活や表情に至るまで鮮明に映し出していることから、絵はがきを「時代を読む資料」として位置付けてきたことが収集の理由である。もちろん、大磯が海水浴場や避暑避寒の地として多くの人々から支持をうけたことを受けて、実に多くの絵はがきが発行されたという地域性もその背景にある。今回の展示は所蔵絵はがきの公開を念頭におきながら、近世以降における庶民の旅の

中で、手頃な土産品として、あるいは情報源としての役割を負ってきたという一面を捉えて集成した。あわせて、展示を通して観覧者それぞれのノスタルジーを呼び起こし、更には「旅 — 非日常 —」の空間を思い描いていただくことを目指した。

(内 容) 神社仏閣に参詣することを主目的にした近世における庶民の旅から、さまざまな目的や方法、更には価値観を生み出した近年までの旅を、それぞれの時代におけるシンボリックな資料とともに構成した。中央正面の展示台には近世の寺社参詣の証しとなった守札、寺社縁起や名所案内などの刷物を配し、特に大磯町内の旧家から見つかった大量の守札(238点)を半ば無造作に積み重ねることによって数の多さを誇示し、強い印象によって展示テーマへの速やかな導入を狙った。また、近世以来の名所案内や地図などの刊行物を随所に配して旅のイメージを助長させ、時代を感じさせるコピーが満載された旅館パンフレット、あるいは昭和40年代を中心に人気を博したペナントやキーホルダー(あるいはその前身としての根付)なども旅の象徴的な事物として展示した。なお、展示室全体には、メインテーマである明治後期から昭和40年代までの絵はがきを、北海道から九州に至るまで地域ごとに集成した。これは、絵はがきそのものが展示物としては小さくて見づらいというハンディキャップが避けられないため、黒いラシャ紙を台紙として1枚1枚ビニールに梱包した絵はがきを貼り付け、ガラスケースのない壁面に思いきって露出展示するなどの方策をとった。その数は2,000枚にのぼり、展示室に入るとその数に圧倒される。一種独特な異空間を思わせることによって、旅という非日常空間の移行を試みた。演出による展示効果はある程度達成できたのではないかとと思われる。

(担 当) 佐川和裕

「地中からの足音Ⅱ—近年の発掘調査の成果—」

期 間 平成11年3月7日(日)～4月11日(日)

開場日数 29日間

会 場 企画展示室

資料点数 約100点

料 金 無料

入場者数 2,758人



(趣 旨) 大磯町域には旧石器(先土器)時代から近現代迄数多くの遺跡が存在し、発掘調査は現在迄百数十箇所に及ぶ地点で行われているが、発掘調査件数の内、8割以上は最近10年位の間に行われている。膨大な調査資料に就いては、整理調査途中の遺跡も多く、一般に公開する機会はずしも多いとは言えないのが現状である。今回の企画展では、大磯町内において近年発掘調査が行われ、現在整理調査途中の遺跡に関して、視覚的に捉える事を主眼とした。展示は、遺構等発掘調査資料の写真パネルとともに、特筆すべき資料であり且つ展示可能な遺物によって構成し、調査成果の速報を行うとともに、資料実見の場を設定することを本旨とした。

(内 容) 丹沢山塊から南東に向かって半島状に斗出する起伏の小さい丘陵は大磯丘陵と呼ばれ、南面する海に向かって樹枝状に分岐する。大磯町域は、大磯丘陵南端の一部と海浜部に挟まれ沖積世に形成された平地を包括した位置に存在する。今回展示対象とした遺跡は大磯町域に所在する7地点である。遺跡の立地は、台地の丘陵部から海浜部まで、また、河岸段丘上等多岐にわたっている。遺跡の性格も集落址、墳墓、祭祀遺構、別荘跡等様々である。展示資料の時期については7時期に大別出来る。すなわち縄文時代後期、弥生時代中期、古墳時代前期、古墳時代後期、平安時代、中・近世、近代である。

主な資料について概観してみたい。縄文時代後期の資料としては、町屋遺跡出土の堀之内期の土偶が挙げられる。弥生時代中期の資料は馬場台遺跡28地点における宮ノ台期の被火災住居址の一括資料が存在する。当該資料は僅かな調査面積の調査であったが、推定規模長軸8m程の住居址が検出され、炭化した住居構築材と共に土器・石器・骨角器等大量の一括資料が存在した。大磯町域では初の宮ノ台期の一括資料であり、相模湾沿岸の当該時期の資料としても特筆されよう。古墳時代後期は横穴墓であり、坂田山南横穴墓群の資

料を掲げた。本横穴墓群は潤沢な遺物を擁し、馬具等の金属製品と共に良好な須恵器の一括資料がみられる。金属製品は未だ展示可能では無い為、遺物群の中から須恵器を展示に供した。かつて別荘地であった町屋遺跡からは、近代の遺物が多く検出されている。洋館建築に使用されていた赤煉瓦・耐火煉瓦や海水浴場の保養施設であった「禰龍館」銘を持つ磁器資料等を展示資料として選定した。他に古墳時代前期の集落址である坊地遺跡（J地点）の土器資料、馬場台遺跡（34地点）の平安時代の住居址内土器一括資料、従前から広く所在が知られる十三塚、関東大震災以前に構築されたという屋敷地の赤煉瓦塀の一部等の資料を展示に供した。

展示に際しては、導線に沿って古い時期から新しい時期へと展開するように資料を配した。すなわち遺跡ごとに纏めず、複合遺跡の場合は同一遺跡の資料が分散することとなる。又、資料を視覚的に捉えるという趣旨に沿い、基本的に詳細な文字解説は行っていない。現物資料に関しては器種名・遺跡名・時期の表記を原則とし、必要と考えられる場合には文字解説を附した。基本的な展示構成は現物資料の背後に遺構等発掘調査時の写真を配してある。解説文・図・写真等は無論パネル化しているが、写真に関しては、視覚的効果や今後の活用を鑑み、木製パネルを使用した。照明については、可能な限り周囲を暗くし、局所照明によって展示資料を引き立たせる効果を図った。

特記事項としては十三塚に関しては遺物が僅少であることと遺構形態への理解を得る為に遺構平・断面図を掲げた。弥生時代後期の被火災住居址の炭化材については、一般的にも展示される例が少ないことから展示を試みた。形状が良好に残存している資料を選定した。炭化材資料は脆弱であり、展示作業中の破損の危険が有った為、合成樹脂溶液を含浸することによって強化を図った。炭化材を分析試料としてみた場合、樹脂含浸作業は逡巡せざるを得ないが、炭化材資料群の樹種同定・炭素年代測定等の分析作業を既に行っていることから作業を実施した。しかしながら必ずしも十分な強度が得られたとは言えない面もあるため、今後の研究が課題としてあげられよう。

又、別荘地の猪瓦資料に関しては、近年迄建造物が存在していたため、過去に撮影した洋館建築の写真及び解体時の記録写真等も併せてパネル化して掲げた。当然の事であるが、近・現代の考古資料を扱う場合、地上に存在する、又は伝世する資料に触れる機会の必要性が増大すると言えよう。また発掘調査以外の採集等による資料収集形態も多く取り入れられる。煉瓦資料の展示においても一個体ごとの資料の他、使用形態を示すため、構築物の一部である塊の状態の資料をも配した。

前記したように、今回の展示で扱った遺跡は整理調査途中である為に、展示可能な資料の選定が多くの制限を受けざるを得ない。今回取り扱った遺跡に関しても、整理調査終了の後に改めて展示を行う必要性が出てくるものと考えられる。

(担当) 國見 徹

■学級・講座

<自然観察会>

「海岸で貝を拾おう」

日 時 平成10年7月26日(日)

会 場 照ヶ崎周辺

講 師 福田良昭氏(相模貝類同好会)

参加者 19人



(内容) 企画展「相模湾の貝類 大磯海域にすむマキガイ」に合わせ、海産貝類をテーマにした観察会を行った。日程については、7月から8月までの干潮の時間を考慮して決めた。

観察会当日は晴天。7月下旬ということもあり、浜辺を歩くには少々厳しい状況であった。町内の北浜海岸から照ヶ崎までを歩いた。その間には、浜、港、磯があり、それぞれの場所に合った貝を観察することができた。浜では打ち上がった貝を採集し、その後で解説を行った。近年、打ち上がった貝をみると二枚貝のサトウガイ、ムラサキガイ、マガキ、バカガイ、ワスレガイ、巻貝のツメタガイ、ダンベイキサゴの7種

類が目立ち、他の種類と出会うことが少ないが、当日は幸運にもレイシガイやイボニシ、マルタニシ、インドヒラマキなど計18種類を観察することができた。

大磯港では、飛沫帯で生息するタマキビガイ、ウノアシガイ、ヨメガカサガイがよく観察された。照ヶ崎に移り、磯の生き物の観察では、潮間帯に生息するイボニシ、レイシガイのほか貝類以外ではフジツボ、ヒトデ、イソカイメンなどが観察できた。

親子参加型で企画を進めたが、夏休みの自由研究にと浜辺で熱心に貝を集めている姿が印象的に残る観察会であった。

(担 当) 北水慶一



<子ども歴史教室>

「さわってみよう！昔の道具」

日 時 平成10年8月5日（水）

会 場 江戸民具街道

講 師 江戸民具街道館長 秋澤達雄氏

参加者 22人

(内 容) 中井町にある“おもしろ体験博物館”江戸民具街道を訪ねた。江戸時代の道具を見学し、あるいは実際に使用して、人々の暮らしとさまざまな知恵を発見することを目的とした。

まず、屋外で消防ポンプによる水の放水を体験した後、館内を見学した。その後、近世以降の燈火具の歴史について講義を聞き、実際に燈火具の使用を試みた。行灯や燭台などさまざまな燈火具を実見し、更に手燭やガンドウなどのように移動・携行するために工夫された道具の仕組みを探った。最後に、油を入れた灯明皿に灯心を置いて実際に火をつけてみた。電灯が当たり前になっている子どもたちにとって、実際の火による燈火は思わぬ感動を呼び起こした。そして、平たい皿と植物性の油、荷造り用（麻や木綿）の紐さえあれば、キャンプや災害などの緊急時にも役立つことを体得した。

(担 当) 佐川和裕、國見 徹



<郷土史講座>

「民俗学講座」

日 時 平成10年11月22日（日）

会 場 研修室

講 師 和田正洲氏（相模民俗学会会長）、
山崎祐子氏（東洋大学短期大学講師）

参加者 21人

(内 容) 多くの方々に民俗学のおもしろさを知っていただくことを目的として開催した。内容は和田氏による「民俗とことば」、山崎氏による「食の民俗学 — 納豆・鮭・茶 —」という2つのテーマで構成した。まず、山崎氏が滋賀県高島町の鮭鮓やタイ族のナレズシ、中国貴州省の納豆などを事例として、豊富な民俗調査を基調としながら塩を使用せずに大豆を発酵させ二次加工しないで食べる地域とその方法などについて論じられた。次いで、和田氏が民俗分布地図などを活用しながらコビルという間食用語を例にあげ、ことばと民俗の関わりについて述べられた。なお、本講座は相模民俗学会からの全面的な協力をいただき、共催として行った。

(担 当) 佐川和裕

■刊行物

- ・企画展チラシ「相模湾の貝類Ⅰ－大磯海域にすむマキガイ－」 A4版 — 2,000部（平成10年7月刊）
- ・Report－大磯町郷土資料館だより－16号 B5版 12頁 2,000部（平成10年8月刊）
- ・企画展リーフレット「日本列島エハガキ紀行」 A4版 4頁 4,000部（平成10年10月刊）
- ・常設展リーフレット「BIN」 4頁 2,000部（平成10年12月刊）
- ・年報－平成9年度－ A4版 32頁 800部（平成10年12月刊）
- ・企画展チラシ「地中からの足音Ⅱ－近年の発掘調査の成果－」 A4版 — 4,000部（平成11年3月刊）

■調査・研究・普及

<調査、研究発表、普及等>

- ・考古歴史民俗自然資料調査（年間、大磯町内外）國見 徹、佐川和裕、北水慶一
- ・県博物館協会会報編集委員会出席（年間、神奈川県立歴史博物館）國見 徹
- ・県博物館協会自然部会研修会参加（5月12日、横浜市緑政局都築自然公園建設事務所）北水慶一
- ・駒澤大学博物館学講座（6月14日、当館）國見 徹
- ・中郡小学校教育研究会社会科部講義（7月29日、当館）佐川和裕
- ・東海道400年情報交換会出席（7月30日、9月17日、11月26日、神奈川県立歴史博物館）佐川和裕
- ・七夕保存会研修会引率（8月26日、大山阿夫利神社）佐川和裕
- ・地方史研究協議会準備大会研究発表（9月20日、神奈川県立公文書館）國見 徹
- ・日本民俗学会第50回年会発表（10月4日、京都佛教大学）佐川和裕
- ・環境教育シンポジウムパネラー（10月13日、町立福祉センター）北水慶一
- ・地方史研究協議会第49回大会発表（11月1日、川崎市市民ミュージアム）國見 徹
- ・山西小学校2年生活科講義（11月5日、山西小学校）佐川和裕
- ・県博物館協会人文部会研修会参加（12月18日、在日アメリカ海軍横須賀基地司令部）國見 徹、佐川和裕
- ・平塚市美術館広重わらじ旅解説（平成11年1月17日、大磯町内）佐川和裕
- ・日本貝類学会創立70周年記念大会参加（1月31日、国立科学博物館分館）北水慶一
- ・大磯・国府・二宮小学校3年社会科講義（1月20日、2月17日・24日、各小学校）佐川和裕

<施設・展示解説>

- ・国府小学校6年（4月23日、36人）
- ・NHK文化センター川越（5月14日、38人）
- ・町田市神奈川景勝会（6月13日、33人）
- ・秦野市立大根公民館 夏休み移動教室（8月28日、30人）
- ・北橋村文化財調査委員（9月18日、10人）
- ・NHK文化センター東陽町（12月9日、40人）
- ・横須賀好古会（12月4日、20人）
- ・江戸民具街道 博物館めぐり（2月9日、45人）
- ・横浜岩崎学園（3月20日、15人）

<執筆>

- ・佐川和裕

- 1998.5 「資料紹介 折口信夫関連資料」『民俗』第164号 相模民俗学会
- .7 「コラム 一軒に残された布」『布のちから 布のわざ』国立歴史民俗博物館企画展示図録
- .8 「海水浴場と漁港 一場をめぐる軋轢と選択」『地方史研究』第274号 地方史研究協議会
- .10 『日本列島エハガキ紀行』大磯町郷土資料館企画展リーフレット

1998.12 「館所蔵民具目録―農具Ⅰ―」『年報―平成9年度―』大磯町郷土資料館
・國見 徹

1998.10 「鞆旅の什器―人の移動の進暢と汽車土瓶―」『地方史研究協議会大会発表要旨』地方史研究協議会

1999.3 『神奈川県博物館協会会報』第70号（共編著）神奈川県博物館協会

■博物館実習

博物館学芸員資格取得のための実習として3大学4名の学生を受け入れた。実習期間は9月30日および12月1日～12日の延べ12日間とした。例年は9月に実施しているが、本年度は国体開催等のために日程を変更した。しかし、この時期は卒業論文や就職活動などと重なり、特に4年生に対しては負担を強いる結果となった。カリキュラムについては別表のとおりである。前半は地域博物館の実情について学ぶことを基本とした総合的な内容とし、後半は常設展示室の一部展示替えを通して企画立案から完成までの実践的な作業を行った。

当館の実習の特徴は、実習生に対して学芸員が全員で対応することにある。また、実習生に専攻分野は問わない。実際の実習では分野ごとに振り分けて作業を行うこともあるが、実習生ひとりひとりの仕事をそれぞれお互いが見通せるような形で進めており、合わせて館全体が常に見えることを心掛けている。つまり、各分野が必要とする知識や作業（技術）は経験的な部分が多く僅かな実習期間では限界があるため、まず、地方自治体の小規模な博物館の実態を見てもらうことを第一義としているのである。そして、全体の流れの中でひとつひとつの実務を経験し理解してもらうことが大切だと考えている。当館では、小さな博物館だからこそできる実習内容を目指してきた。実習生受け入れ当初から「展示替実習」を取り入れてきた理由もそこにある。いずれにしても、小規模の体制の中で受け入れていかざるを得ないため、背伸びせずに実情に合った形で進めていくことを前提としつつ、今後も一層効果的な実習内容を検討していく必要がある。

<実習生>

横山洋子（駒澤大学）、野田武志（同）、栢沼奈佳（東海大学）、平田直史（桜美林大学）

<カリキュラム>

9月30日(水)	ガイダンス、館内見学	12月6日(日)	実技実習（資料取扱い、梱包、16mm映写他）
12月1日(火)	講義、町内施設見学	12月8日(火)	展示替実習（企画立案、資料調査）
12月2日(水)	考古系実習（資料洗浄・接合）	12月9日(水)	展示替実習（旧展示片付、資料調査）
12月3日(木)	考古・民俗系実習（測量・聞取調査）	12月10日(木)	展示替実習（写真撮影、展示器材作成）
12月4日(金)	考古・民俗系実習（測量・聞取調査）	12月11日(金)	展示替実習（資料展示、リーフレット作成）
12月5日(土)	自然系実習（ミニ観察会、資料取扱い）	12月12日(土)	展示替実習（資料展示、記録）、総括

（担当）國見 徹、佐川和裕、北水慶一

■博物館資料の収集と利用

<寄贈資料>

(敬称略)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
0501	H10. 5. 7	ビール壺	4	渡邊恵子 大磯町東町	1003	H10.10.22	ジューロータ	1	岩崎侯橋 大磯町生沢
0502	5. 5	衣類、磁器	一括	尾崎芳治 大磯町大磯	1004	10.22	本箱、書籍	19	山口 進 大磯町国府本郷
0503	5. 5	時計	1	関野浪子 大磯町大磯	1005	10.22	書籍	1	飯田福信 大磯町大磯
0601	6. 5	刺子半纏 他	4	真壁清一 大磯町大磯	1006	10.23	機関銃の弾丸 他	35	木村純子 大磯町大磯
0602	6. 9	アオバト	1	澤田美喜記念館	1101	11. 6	衣類、蝶	19	木村純子 大磯町大磯
0603	6. 9	蝶標本	6	木村純子 大磯町大磯	1103	11.11	衣類	3	木村純子 大磯町大磯
0604	6.10	テンビンバカリ 他	4	真壁清一 大磯町大磯	1104	11.17	箆筍、膳 他	一括	西海 誠 大磯町大磯
0605	6.10	袴	1組	青木貞夫 大磯町高麗	1105	11.17	机、椅子	5	JR大磯駅
0606	6.12	守札、千本格子	一括	真壁清一 大磯町大磯	1106	11.18	衣類 他	9	木村純子 大磯町大磯
0801	8.13	安田善次郎邸 設計図	19	安田建一 大磯町東小磯	1107	11.29	状差し	1	飯田福信 大磯町大磯
0803	8.27	衣類、蝶	250	木村純子 大磯町大磯	1201	12. 1	絵はがき 他	389	守屋靖子 横浜市青葉区
0901	9. 9	掛軸	1	大川秋俊 大磯町月京	1202	12. 3	木銃 他	一括	西山敏夫 二宮町山西
0904	9.18	衣類、蝶	31	木村純子 大磯町大磯	1203	12. 8	オキボッコ 他	3	加藤勝蔵 大磯町大磯
0905	9.24	古文書 他	一括	西山敏夫 二宮町山西	0201	2. 2	ソロバン、カルタ	2	匿名
0906	9.25	片口、蝶	34	木村純子 大磯町大磯	0301	3. 1	衣料切符入れ 他	19	木村純子 大磯町大磯
1001	10. 6	衣類、蝶	53	木村純子 大磯町大磯	0302	3.12	電卓	1	飯田一夫 大磯町大磯
1002	10.20	書籍、蝶 他	41	木村純子 大磯町大磯	0303	3.15	焼酎瓶 他	22	星野喜三郎 小田原市扇町

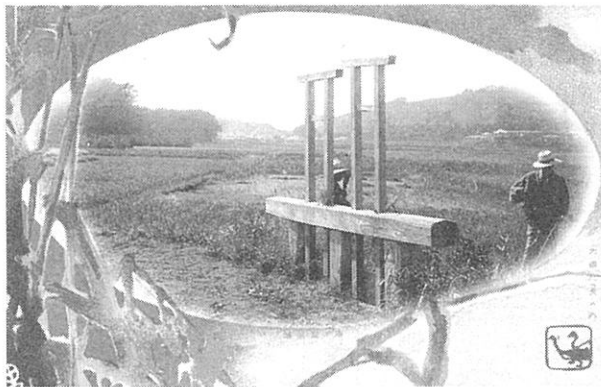
<寄託資料>

(敬称略、寄託期間：H10.4.1～H12.3.31)

No.	受託年月日	資料名	数量	受託先	No.	受託年月日	資料名	数量	受託先
0401	H10. 4. 1	雛人形	一式	田川順三 横浜市緑区	0411	H10. 4. 1	七夕資料 他	一括	小見康夫 西小磯西子ども会
0402	4. 1	高札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0412	4. 1	四季耕作図 他	9	守屋町子 大磯町黒岩
0403	4. 1	一本松講中資料	一括	宮代治吉 大磯町大磯	0413	4. 1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯
0404	4. 1	菊池重三郎資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0414	4. 1	掛軸 他	一括	斎藤文雄 西小磯(東西)区
0405	4. 1	サフラン看板	1	添田佐助 大磯町国府本郷	0415	4. 1	統監帽 他	一括	斎藤文雄 西小磯(東)区
0406	4. 1	掛軸	1	高木とみ子 大磯町西小磯	0416	4. 1	獅子頭	2	原田繁雄 裡道区
0407	4. 1	書(断片)	一括	加藤文八 平塚市諏訪町	0417	4. 1	書籍 他	一括	飯島成三 横浜市中区
0408	4. 1	古文書	一括	後藤 勲 大磯町月京	0418	4. 1	吉田茂杯 他	5	本田博造 大磯中学校
0409	4. 1	稲荷講資料	一括	戸塚 浩 大磯町西小磯	0419	4. 1	古文書	一括	近藤敬一郎 東京都新宿区
0410	4. 1	書籍	2	山川 正 大磯町月京	0903	9. 4	鎌倉囃子道具	一括	渡邊長吉 大磯町西小磯

<購入資料>

No.	購入年月日	資料名	数量	購入先
0802	H10. 8.26	錦絵、絵はがき	2	すりもの堂書店



絵はがき (購入)

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	期間	申請者	資料名	点数	利用目的	期間	申請者
衣類	一括	展示	H10. 4. 5 ～ 9. 1	国立歴史民俗 博物館	書籍	12	参考資料	H10. 9.29 ～10.18	南足柄市 郷土資料館
古文書 (鳴立庵文書)	8	町史編纂	4.16 ～ 4.30	大磯町企画 政策室	古文書 (旧高麗寺村文書)	1	町史編纂	12. 9 ～12.25	大磯町企画 政策室
古文書 (旧中川良知家文書)	1	町史編纂	5.14 ～ 5.29	大磯町企画 政策室	古文書 (近藤俊雄家文書 他)	3	町史編纂	H11. 1. 7 ～ 1.14	大磯町企画 政策室
古文書 (旧小島本陣文書)	1	町史編纂	6. 3 ～ 6. 5	大磯町企画 政策室	注口土器 他	28	町史編纂	1. 7 ～ 2.26	大磯町企画 政策室
ツキンボ 他	5	小学校講義	6.24 ～ 7.13	個人	テンピンバカリ	1	参考資料	1.17 ～ 1.20	個人
銅印 他	17	展示	6.28 ～ 9. 6	平塚市博物館	古文書 (近藤俊雄家文書)	1	町史編纂	2. 5 ～ 2.12	大磯町企画 政策室
化石	15	展示	7. 9 ～ 9. 4	相模原市立 博物館	ビデオテープ (展示映像)	1	参考資料	2. 6 ～ 2.13	個人
ビデオテープ (展示映像)	1	ホームページ	7.28 ～ 8.16	大磯小学校	槍先型尖頭器	1	中学校講義	2. 9 ～ 2. 9	個人
水槽、顕微鏡 他	10	行事	9. 4 ～ 9. 8	大磯町建設課	写真	1	刊行物掲載	2.15 ～ 2.22	朝日新聞社
ビデオテープ (鎌倉囃子)	1	授業	9. 5 ～ 9.24	大磯中学校	掛軸 他	3	祭礼	3. 5 ～ 3. 9	西小磯東・ 西区
古文書 (旧小島本陣文書 他)	3	町史編纂	9.24 ～ 9.30	大磯町企画 政策室	写真	1	刊行物掲載	3. 5 ～ 5. 6	個人

<資料の特別利用>

資料名	点数	利用方法	年月日	申請者	資料名	点数	利用方法	年月日	申請者
資料館館内	—	撮影/放映	H10. 4.23	(社)神奈川ニュース 映画協会	絵はがき	5	複写/展示	H10.10. 6	大磯町経済 観光課
資料館館内	—	撮影/掲載	5.14	東京電力(株)	資料館館内	—	撮影/掲載	11.26	(株)ジェイアール 東日本企画
大磯・二宮層産化石	一括	撮影/掲載	5.20	相模原市立 博物館	資料館館内	—	撮影/発表	12. 9	個人
錦絵、絵はがき 他	14	撮影/放映	6.11	NHK番組 制作局	写真	1	複写/掲載	12.14	(株)プレーン プール
資料館館内	—	撮影/発表	8. 9	個人	古文書	3	撮影/掲載	H11. 1. 7	(株)コクサイクリエ エイティブセンター
資料館館内	—	撮影/発表	8.19	個人	資料館館内	—	撮影/発表	1.17	個人
絵はがき	—	撮影/掲載	9. 9	(有)神田組	懐中時計台	1	撮影/復刻	1.31	個人
錦絵、絵はがき	7	撮影/放映	9.17	NHK横浜 放送局	資料館館内	—	撮影/掲載	2.20	毎日新聞社
絵はがき、資料館館内	14	撮影/放映	9.20	共同 テレビジョン	資料館館内	—	撮影/掲載	2.25	個人
写真	1	複写/掲載	9.29	個人					

<文献寄贈機関・団体>

—県内—

神奈川県／神奈川県科学技術政策室、神奈川県教育庁、神奈川県自然保護センター、神奈川県市町村振興協会、神奈川県湘南なぎさ事務所、神奈川県農政部水源の森林推進室、神奈川県博物館協会、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立公文書館、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県立埋蔵文化財センター、神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター、神奈川県立歴史博物館、(財)かながわ考古学財団、(財)神奈川文学振興会、地球市民かながわプラザ

横浜市／神奈川地域史研究会、神奈川大学日本常民文化研究所、グリーンタフ事務局、寺家ふるさと村四季の家、玉川文化財研究所、(財)馬事文化財団、横浜市立金沢動物園、横浜自然観察の森、横浜市歴史博物館、(財)横浜市勤労福祉財団、横浜マリタイムミュージアム、横浜市教育委員会、横浜市ふるさと歴史財団

川崎市／川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園

横須賀市／横須賀市自然・人文博物館、横須賀市教育委員会

鎌倉市／鎌倉国宝館、鎌倉文学館、鎌倉市教育委員会

藤沢市／江ノ島水族館、日本大学生物資源科学部資料館、藤沢市教育委員会、藤沢市文書館、藤沢市湘南台文化センター

茅ヶ崎市／茅ヶ崎市文化資料館、茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市文化振興財団

相模原市／相模原市立相模川ふれあい科学館、相模原市立博物館、相模原市教育委員会

海老名市／海老名市教育委員会

大和市／大和市教育委員会

綾瀬市／綾瀬市秘書課、綾瀬市教育委員会

座間市／座間市教育委員会

厚木市／厚木市教育委員会、厚木市郷土資料館

秦野市／丹沢自然保護協会、秦野市総務部情報課

平塚市／東海大学校地内遺跡調査団、平塚市博物館、平塚市教育委員会、平塚市中央図書館

小田原市／小田原城天守閣、小田原市教育委員会、小田原市郷土文化館、報徳博物館

南足柄市／南足柄市郷土資料館

葉山町／葉山しおさい博物館

寒川町／寒川町企画部町史編さん課

二宮町／徳富蘇峰記念館、二宮町教育委員会

開成町／開成町教育委員会

山北町／山北町教育委員会

箱根町／箱根町立郷土資料館

真鶴町／真鶴町立中川一政美術館

愛川町／愛川町教育委員会

大磯町／高麗山神輿保存会20周年記念事業実行委員会

—県外—

東京都／板橋区立郷土資料館、江戸東京たてももの園、青梅市郷土博物館、青梅市教育委員会、大田区立郷土博物館、表千家同門会東京都連合支部、お茶の水女子大学学芸課程、外務省外交資料館、儀礼文化学会、くにたち郷土文化館、(株)コクヨ、世田谷区教育委員会(民家園)、たばこと塩の博物館、(株)丹青研究所、調布市郷土博物館、東海道ネットワークの会、東京都江戸東京博物館、豊島区立郷土資料館、東京家政学院生活文化博物館、大島町役場、東京学芸大学教育学部生涯教育研究室、日本ユネスコ協会連盟、(財)日本博物館協会、日野市教育委員会、府中市郷土の森博物館、福生市郷土資料室、(株)ブレーンプール

北海道／アイヌ文化振興・研究推進機構、(財)アイヌ民族博物館、北海道開拓の村

岩手 県／前沢町立牛の博物館
群馬 県／北橋村歴史民俗資料館、北橋村教育委員会
栃木 県／小山市立博物館、栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
茨城 県／東町立歴史民俗資料館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場、土浦市教育委員会
千葉 県／市立市川自然博物館、市立市川歴史博物館、国立歴史民俗博物館、佐倉市立和田公民館、佐倉市教育委員会、館山市立博物館、千葉県立中央博物館、松戸市博物館
埼玉 県／大井町教育委員会、埼玉県立博物館、三芳町教育委員会
山梨 県／環境庁自然保護局生物多様性センター、若草町教育委員会
長野 県／茅野市八ヶ岳総合博物館、藤村記念館
静岡 県／静岡県立美術館、静岡市立登呂博物館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館、藤枝市郷土博物館、藤枝市教育委員会、焼津市歴史民俗資料館
愛知 県／安城市歴史博物館、豊橋市美術博物館友の会、豊橋市二川宿本陣資料館、豊橋市自然史博物館、常滑市民俗資料館
岐阜 県／多治見市文化財保護センター
滋賀 県／大津市歴史博物館
京都 府／(株)京都科学、京都橘女子大学、舞鶴市赤れんが博物館、向日市文化資料館
大阪 府／大阪市立自然史博物館
奈良 県／奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
三重 県／亀山市歴史博物館、鈴鹿市考古博物館、藤原岳自然科学館、(株)御木本真珠島
兵庫 県／神戸市立博物館
鳥根 県／鳥根県埋蔵文化財センター
愛媛 県／愛媛県歴史文化博物館

研 究 報 告